



2017・4・11

第 269 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

地域に根を張る組織広げ、安倍暴走止めよう

地域・分野の会が交流会

4月4日、九条の会の分野別の会と東京・首都圏の地域九条の会の交流会が九条の会の呼びかけで開かれました。

会では冒頭、九条の会の小森陽一事務局長が、3月31日開かれた九条の会呼びかけ人・世話人会議の論議を紹介したうえで、憲法施行70年で各会の行動計画を交流すること、6月2日の九条の会講演会の成功をめざすこと、について交流することがこの日の会の目的であると述べました。

これを受けて、参加した各地域・分野の会からの発言が相次ぎました。

発言では、憲法審査会の論議が再開されたことと関連して憲法改悪をめぐる情勢をどうみたらいいかの議論がなされるとともに、各地、各界におけるこの間の戦争法廃止や共謀罪反対、憲法施行70年にむけたとりくみなどが紹介されました。そうした運動を地域の草の根に広げるために、たとえば東京・練馬では34の地域の九条の会がつくられるなど、計画的に地域の会を広げている経験も紹介されました。

また、国分寺から市民まつりから国分寺九条の会の会が排除された問題が出される

日本国憲法施行 70 年 九条の会講演会

◇日時 6月2日(金)

17時30分開場 18時00分開会

◇会場 東京・杉並区・杉並公会堂

◇リレートーク

九条の会呼びかけ人・澤地久枝(作家)
世話人・愛敬浩二(名古屋大学教授)、
浅倉むつ子(早稲田大学教授)、池内了(名古屋大学名誉教授)、池田香代子(ドイツ文学翻訳家)、伊藤千尋(元朝日新聞記者)、伊藤真(弁護士)、内橋克人(経済評論家)、清水雅彦(日本体育大学教授)、山内敏弘(一橋大学名誉教授)

◇参加費 前売券 1300円 当日券 1500円、学生 500円(事前申込み制)

と、成人式の会場近くで新成人に訴えをしていることに市教委からクレームがついているなど似たケースも報告され、こうした攻撃にどう立ち向かうも討論になりました。

また、総選挙に向けて、野党共闘をどう実現するか、この問題での九条の会の役割はどうあるべきかをめぐって多くの意見も

多く出されました。

最後に、6月2日の「憲法施行70年九条の会講演」を成功させるため、東京、首都圏、各分野の会が力をあわせることを確認しました。

「アベ政治は許さない」行動

毎月取り組まれている「アベ政治を許さない」のポスターを一斉に掲げる行動が、3日全国各地で取り組まれました。

東京都千代田区の国会正門前には約80人が参加。「森友学園」疑惑や「共謀罪」への怒りをアピールしました。

神奈川県藤沢市の女性（63）は、「森友かくし 共謀し放題」と手書したプラカードを持参。「安倍政権は、『共謀罪』法案を提出して国民の思想の自由を脅かそうとする一方で、共謀して疑惑を隠そうとしている」と語りました。

京都市では、この運動を呼び掛けた九条の会の呼びかけ人の一人で作家の澤地久枝さんも参加し、下京区の京都タワー下で、40人以上が並んで訴えました。

定例の午後1時、参加者がいっせいにポスターを掲げると、多くの観光客らが立ち止まり、注目を集めました。

兵庫県から来た女性（53）は「自由な意見、思いが大切にされる社会を守りたい。共謀罪は絶対に反対です」と語りました。

澤地さんは「いま黙っていれば、どれだけ政治が悪くなるかわからない。たくさん集まっていただきうれしい」と述べました。

呼吸器系の難病を押して長岡京市から駆けつけた吉原光江さん（74）は、ニューギニアで戦死した父親の写真に「若者を戦場

に送るな」と書いたプラカードを掲げました。「父は私が生まれる前に戦死し、結婚生活は3ヵ月だった母の『知らん間に戦争になっていた』という言葉が忘れられない。『共謀罪』で、政権批判の行動も対象になるのではと怖い。二度と同じことを繰り返していけない」と話しました。

治安維持法の再現やめさせよう

【和歌山県紀の川市・守ろう9条紀の川市民の会】 「紀の川市民の会」は4月1日、立命館大学の植松健一教授を招き記念講演会「安倍首相はなぜ憲法を変えたいのか—私たちの生活はどうなるのか」を和歌山市で開きました。

同会の原通範代表は開会あいさつで、森友学園問題の徹底究明を求めるとともに、「身近なところで憲法について機会あるごとに話し合っていこう」とよびかけました。

植松氏は、治安維持法により逮捕され獄死した哲学者、戸坂潤の業績を「思想や言論の統制を批判し、国民の無関心を狙っていると指摘した。いまの状況につながる」と紹介。思想・信条の自由を侵害する共謀罪の危険性について「戸坂を逮捕した治安維持法も導入されるとき、一般市民には関係ない法律だとした」と告発しました。

また憲法について「国のかたち、国の制度や法律をつくりあげるもの」と指摘し、安倍政権が、集団的自衛権や戦争法などでねじ曲げてきたと批判。安倍政権の改憲の狙いについて、①米国の権益の擁護、②グローバル企業の利益の擁護、③右翼的勢力の擁護をあげ、憲法を守ることの大切さを訴えました。

時代錯誤の教育勅語賛美

【仙台市泉区・九条を守る加茂の会】

「九条を守る加茂の会」は4月2日、加茂市民センターで、川端英子さんによる「憲法に守られている私たちのくらし—図書館運動を通して」と題する講演会を開き、40人が参加しました。

川端さんは、教育勅語の暗唱や奉安殿への最敬礼の強制など、自ら経験した戦争中の軍国主義教育について話し、安倍政権のすすめる憲法改悪などは、戦前復帰につながると批判しました。

また、長年携わってきた「もっと図書館をつくる会」や「子ども文庫」の活動について話し、子どもたちが本に親しみ、本を読み聞かせることが子どもの成長にとって大事だと強調しました。

最後に、日本国憲法の前文と9条を仙台弁で紹介し、大きな拍手に包まれました。

「共謀罪」反対宣伝に反響

【青森県・青森県九条の会】 青森県九条の会は5日、青森市新町で、国民の思想・信条・言論・表現の自由を脅かす「共謀罪」反対を訴え、『共謀罪』の創設に反対する緊急統一署名」を呼びかけました。

「戦前もこうやって、ちょびちょびと戦争の準備をして国民を縛っていった」（88歳・男性）、「やっと戦争が終わったと体を感じた時の感覚を忘れません。戦争のない今の時代を壊したくありません」（80代・男性）など戦争体験者が次々と足を止め署名しました。

署名した市民からは、閣僚が「教育勅語

の教育現場での活用を容認する発言が相次いでいることへの批判もなされました。

署名した女性は「どういうことが起こっているか知りたい」と会のメンバーに声をかけました。「教育勅語の活用には反対です。『共謀罪』のことも勉強してみます」

「政治には詳しくない」という50代の女性は「森友問題を見ていて政府は教育勅語を認めていると思いました。それに気づき、安倍政権が戦争する国を目指しているというみなさんの訴えがふに落ち、つながってきました」と署名した理由を語りました。

野党は共闘して共謀罪を廃案に

【香川県・9条の会かがわ等】 9条の会かがわと香川革新懇は6日、「共謀罪」法案の廃案を求めて高松市の商店街をデモ行進し、約60人が参加しました。出発集会では、日本共産党の白川よう子衆院四国ブロック比例候補、新社会党県本部の井角操委員長、ママの会⑨かがわの堀尾崇子さんらが「共闘して廃案」と訴えました。

白川氏は「一人ひとりが監視される社会を許してはいけない。市民と野党の共闘で憲法守れ、『共謀罪』廃案の声を上げよう」と呼びかけ、井角氏は『共謀罪』は決してテロ対策のためではない」と訴えました。堀尾氏も「ママの会もあきらめず、声を上げ続けます」と力を込めました。

参加者は「戦争法廃止、『共謀罪』反対」を求める手作りの横断幕や風船を手に行進し、「おしゃべりだって罪になる『共謀罪』は廃案」と声を合わせました。

立ち止まって訴えを聞いていた男性（21）は、「戦前のような監視社会になってしまう

『共謀罪』はだめです」と話しました。

自衛隊の撤退1日も早く!

【札幌市西区・琴似、山の手9条の会】

琴似と山の手9条の会は3月16日、地下鉄琴似駅前で憲法改悪反対を求める署名宣伝を行いました。

風が強く、時折小雪が舞う中、参加者8人は、手作りの横断幕、プラカードを掲げ、買い物客らに呼びかけました。

「安倍内閣は自衛隊の南スーダンからの撤退を決めましたが、5月でなく一刻も早く撤退すべきです」と訴えました。

「ものが言えなくなるなんて恐ろしいです。いつか来た戦争への道のようです」と女性が署名。「戦争がもう少し長引いたら戦争に駆り出されて南方で死んでいたかも。とにかく食べ物がなかった」と男性(84)が訴えました。

何の署名をしているのか尋ねてきた男性は、憲法改悪反対の署名であることを確かめ、「憲法は守るのが当然」と話しました。

切れ目なく草の根で活動を

【千葉県房総地域・南房総九条の会】

<この間の活動報告>

①3月3日(金)、とみうら・枇杷倶楽部前でスタンディングアピール実施(10名参加)。

②3月14日、千葉県知事選 すみや統一候補安房遊説(12名参加)

③3月17日(金)、南房総九条の会で取り組んだ『「共謀罪(テロ準備罪)」法案の国会提出に反対する署名』第一次、第二次分を含め50筆分を提出。

④3月19日(日)、とみうら・枇杷倶楽部

前でスタンディングアピールの実施(12名参加)。

⑤4月3日(月)、とみうら・枇杷倶楽部前でスタンディングアピール実施(10名参加)
(「南房総九条の会ニュース」No27)

総選挙に向け野党共闘実現へ

【神奈川県青葉区・青葉台地域九条の会】

アベ改憲勢力の「結果多数」を打ち破る確かな手立てがここ神奈川8区(青葉区と緑区、または都築区)でも、全国295の小選挙区と同様に、力強く生まれました。

次の総選挙で、安倍改憲勢力3分の2を何としても打ち破り、その野望を頓挫させないと、9条の会としても会員の皆さんの人生の目標にとっても、悔いを千歳に残すことになりかねません。そうしたことから市民連合を結成しようという運動が始まっています。3月18日に「かながわ市民連絡会」の集まりがあり、それに参加した当会選出の準備委員から以下の報告がありました。

* * * * *

市民連合正式発足を目指す集会(5月20日午後6時、青葉公会堂)にむけて、青葉・緑市民連合設立準備会の動きが着実に進展しています。

事務局体制は、4月はじめには10名程度になる見込みです。市民連合への加入・登録方式は個人加入を基本としつつ、団体については市民連合と協力・共同する関係を作ることとしています。定例会議も毎週火曜日に行うことにして連絡を密にして動いています。

(「青葉台地域九条の会ニュース」No115)